

登録される文化財の概要

- ① 木梨家住宅主屋、 ② 木梨家住宅離れ、 ③ 木梨家住宅二階屋
④ 木梨家住宅一ノ蔵、 ⑤ 木梨家住宅二ノ蔵、 ⑥ 木梨家住宅表門

1 文化財の所在地

山口県山口市桜島六丁目

2 所有者

個人

3 年代・構造

- ① 主 屋：慶応3年（1867）／明治中期増築／昭和40年代改修、
木造平屋建、瓦葺、建築面積190㎡
② 離 れ：明治中期、木造平屋建、瓦葺、建築面積43㎡
③ 二 階 屋：大正後期／平成3年改修、
木造2階建一部平屋建、瓦葺、建築面積86㎡
④ 一 ノ 蔵：大正前期、木造平屋建、瓦葺、建築面積27㎡
⑤ 二 ノ 蔵：明治28年、木造2階建、瓦葺、建築面積23㎡
⑥ 表 門：江戸末期、木造、銅板葺、間口2.9m

4 概要

木梨家住宅は、山口市の宮野地域の北部に位置し、山裾と「木梨堤」と呼ばれる池に囲われた武家の屋敷。木梨家は、江戸時代には萩藩の家臣として毛利氏に仕え、明治時代には、長野県令、貴族院議員等を歴任した木梨精一郎が、男爵の爵位を授かる。

慶応3年（1867）、木梨彦右衛門がこの地に移住した際に主屋や表門を建て、明治・大正時代に離れや蔵等が増築された。

武家の構えを留める格調高い主屋等、木梨堤越しに望むことができる屋敷構えが、地域の歴史景観として現代まで継承されている。

- 主屋は敷地東側の山裾に西面して建つ。片入母屋造棧瓦葺で、建物正面に入母屋造の式台玄関を付す。内部は南側に2間続きの座敷を配して、床を構え、南庭に開けた内縁を通す。
- 離れは主屋の南東に位置する座敷。入母屋造棧瓦葺、8畳の座敷と4畳間を並べ、南・西面に濡れ縁を廻らす。縁外に八角形の柱を立て、杉の磨き丸太の軒桁を受ける。座敷は床の両脇を床脇とし、平書院を備える。数寄屋風の軽やかな意匠の座敷で、中庭越しに木梨堤を望む。
- 二階屋は敷地の南西に建つ離れ。2階建寄棟造の西面に入母屋造の平屋建てが付く。外壁は下見板張、矩形の窓を並べた洋風の意匠である。内部は各階に座敷を配し、南側に内縁を通す。
- 一ノ蔵は敷地の西側に建ち、男爵木梨精一郎のゆかりの品を収蔵する。切妻造棧瓦葺で、外壁は内法より下を豎羽目板張、上部は漆喰塗。内部は1室で壁、床は板張とする。
- 二ノ蔵は主屋の北西に位置する家財蔵。切妻造棧瓦葺で、外壁は大壁で豎羽目板張。内部は各階1室で壁、床は板張とする。
- 表門は敷地の南西部、木梨堤を横断する土橋の正面に建つ薬医門。両脇に潜戸を設け、質実な意匠で屋敷の表構えをつくる。



①主屋（外観）



①主屋（内部）



②離れ（外観）



②離れ（内部）



③二階屋（外観）



④一ノ蔵（外観）



⑤二ノ蔵（外観）



⑥表門（外観）